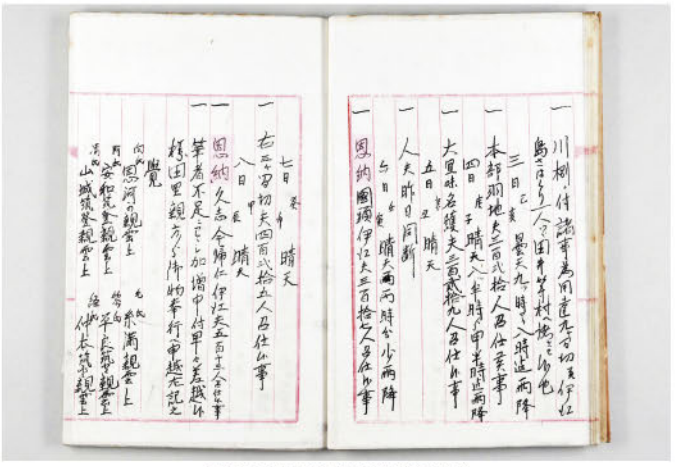
恩納村史
編さんだより
111

羽地大川改修工事（1735年）と恩納間切

村史編さん係では恩納村に関係する資料を収集・保存・記録しています。様々な角度から恩納村を知るため、あらゆる資料を収集するのが理想です。しかし、恩納村の出来事や人物が直接記されている資料以外は見落としてしまいがちです。今回は、他の地域の出来事ですが、恩納村の人々も関わっていたことがわかる記録を紹介します。



羽地大川修補日記（写本）
（琉球大学附属図書館所蔵）

琉球王府時代、租税には米などの作物や上布などの生産物を上納する他に労務もありました。これを夫役といいます。夫役には地頭地の耕作や公共事業などへの動員がありました。王府が関わる公共事業の場合、間切（現在の市町村）へ労働力を出すように命令が出され、各間切から夫役として求められた人数が求められた日数派遣されました。

さて、現在の名護市羽地には広大な田んぼがあり米どころでした。しかし、大雨の度に羽地大川が氾濫し田んぼが崩れる被害が出て、長く手の打ちようがないままでした。1735年（尚敬王時代）7月、台風によって羽地大川が大規模に氾濫しました。羽地間切の役人らはとうとう、この窮状を王府に訴えたところ、中国で治水技術を学んだ蔡温や役人たちが派遣されました。蔡温らは羽地大川の被害状況を調査し、改修工事が行われることとなりました。工事は大がかりで、国頭方（現在の国頭郡）の9間切（国頭、大宜味、今帰仁、本部、名護、羽地、久志、金武、恩納）と伊江島から人夫が動員されました。この時の記録『羽地大川修補日記』の写本（島袋源七による）が残されており、そこから工事の様子がうかがえます。日記には日ごとの動員数、最終的な間切ごとの動員数、10間切の総動員数が記されています。

「改決羽地川碑記」（名護市）
羽地大川改修工事を記念する石碑。現物は名護博物館に収蔵されており、現地には複製が設置されています。

8月の中旬から11月の中旬までの工事期間中に動員された人数は、延べ10万7380人にのぼりました。そのうち恩納間切からは計23日間、延べ7497人の人々が工事に駆り出されたそうです。次頁に恩納間切の人々が動員された日とその日の動員数を示します（表）。日ごとの記録からは恩納間切のみの動員数はわかりませんが、日記の巻末に総動員数と仕事内容による従事者の内訳が記録されています。

改修工事の仕事は「いぬまん」（小木や枝木のようなもの）の束や杭木をとって運んでくること（取夫）、土留や土堀り、土運びなどがありました。恩納間切から動員された人々はいぬまん取夫や杭木取夫を勤めました。

9月16日より「女」の労働人数が記載されるようになります。「男の人夫ばかりでは足りないだろうから、土を運ぶ作業の後は、女の人夫も（働かせるよう）ご指示下さい」との工事担当の役人から申し出があったためです。これを受けて男夫一人の半分（の労働力）で女性が動員されました。よって女性の数は実際の半数で数えられたため、本来の動員数は倍だった